

令和 2 年度  
北九州市立看護専門学校  
一般入学試験

国語問題用紙  
( 9:00 ~ 9:50 50分 )

<注意事項>

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が 15 ページまであります。
- 3 落丁・乱丁のある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
  - ① 受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄の数字をマークしてください。
  - ② 氏名欄に氏名・フリガナを記入してください。
- 5 問題冊子は回収します。

受験番号

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

動物は、ある種のものだけ透過させる細胞膜で自分を囲って、自分と外部とを区別して生きています。動物が個体として独立して行動しているのは、そういう現実においてである。それはちょうど、国家が国境を築いて独立しているようなものである。他者と激しく対立している国家もあれば、国境は築くけれど、人間も物も、その国境のあちこちで交流させている国家もある。生物個体は、いわば後者のような国家である。法治国家が憲法をもとにして動いているように、生物は、遺伝子をもとにして動いている。細胞核の中に保存されたDNA分子は、それぞれの種が備えている設計図のようなもので、国家で言えば憲法のようなものである。憲法はいくらか⑦ジユウナンに読みとれるようにできている。個々の場面で憲法がどのように活用されるべきかは、そのときどきの政治家が判断すべきことである。あるいは、国民が判断すべきことである。同じように、DNA分子も必要に応じて細胞内のミトコンドリアなどによって読みとられて、個々の場面で活用される。

つまり生物個体も、たいていの個体が、じつはその内にさまざまな主体を組み込んで、個々の問題の解決を現場に直面する個々の主体にまかせて、個々の場面を乗り切っているのである。そういう無数の現実が、一個の生物を成立させている。

人間の身体も、よく考えてみれば、じつに複雑な機構をもっている。人間の統制は脳が行っている、と言っても、意識にのぼる脳の機能はその一部に過ぎない。だれもいちいち心臓のペースを計算して、このペースで行こうと決めて心臓に命令などしていないし、消化器官のはたらきや、体内に分泌するホルモンの分量も考えていない。みな、それぞれの領域を受け持つ主体が計算して決めているのである。

人間だれもが、そういう主体についてはほとんど無知のまま、数え切れないくらいの主体を自分の身体の中にかかえもっている。それでも、国家が一つの国として統制されているように、1 生き物は一個に統制されて生きている。

生き物の世界がもつこの統制がいかになされているかの理解は想像を超えているとしても、生きている限り、生物個体において、この統制が効いているのである。逆に言えば、生物個体は、個体としての統制をもつことができるかぎり、生きているし、それができなくなったとき、消滅する。死体は④フハイして栄養素に分解される。あるいは元素にまで分解される。死ぬとは、生き物としての統一性を失うことである。「わたし」が「わたし」で無くなるときである。死体は自己としての統制を失って、分解していく。「わたし」という魂がどこかへ行ってしまつて、残された物体としての身体が、統率者を失って⑤チリチリになつていくのである。

植物は、動物とは違う個性をもつが、それでも、わたしはつぎのような経験をした。ある秋の終わりに、わたしは庭でユズリハの葉を落とした。正月にその葉を飾りに使う常緑の樹木である。ユズリハの葉は、緑を保ったまま幾日も土のうえでそのままだった。一週間ほどは、まったく緑の色合いに変化はなかった。ところが、ついに冷たい冬の日がやって来た。冷気に当たった緑の葉は、どの葉もたった一日で枯れ

葉となり、取り上げた手のなかでぱりぱりと音を立ててこわれた。枝から切り離された葉は、それだけでは死ななかつたのである。冬の冷氣に当たって、はじめて魂を抜いたのである。それはアザやかな死に際に見えた。

植物を含め、生物個体もつこの個性は、やはり独特なものである。物体の一個とは明らかに異なっている。物体には、一個であること<sup>㊦</sup>をイジしようとする a が<sup>㊦</sup>ないからである。個々の物体には、重力や化学的結合力がはたらいている。しかし、それは生物がもつ統一性とは別種のものである。元素とか分子も、一つ一つであるが、その個性は、物質に普遍的に見られる結合力によって、ある大きさになると計算できるほど正確に同じ法則性を示す。言い換えると、まったく必然的であって、偶然的な個性ではないのである。物体は、必然的で法則的だから、一定の条件のなかでそのふるまいが計算できる。それに対して生物個体は偶然の固まりだから、そのふるまいが予測できないのである。

現代でも死にかけていた人が医者<sup>㊧</sup>の予想に反して直ったり、その逆に思わぬ仕方<sup>㊧</sup>で病が悪化して死んだりしている。そうした例は数え上げればきりがないだろう。それゆえ<sup>㊧</sup>生命はやはり神秘に見える。

かつてヨーロッパでは、アリストテレスとそれに続く時代、生物はその内側から形ができてくるが、物体は外から形が与えられている、という見方をしていた。専門用語を用いれば、生物は形相が内在する実体であるが、物体は形相が外的に付帯している偶性であると言う。そういう違いで、生物（靈魂をもつもの）と物体が区別されていたのである。

現代科学の研究によれば、宇宙全体がある進展をしている。したがって現代では、物体が外から形を与えられている、という見方は素朴過ぎる見方だろう。しかし日常生活の感覚からすれば、物体が外から形を与えられている、というの<sup>㊧</sup>は b である。河原の石ころも、水の流れて転がされて丸くなっている。また木が切られ、削られて、机や椅子ができてくる。人為的であるかどうかは別として、外側からの力によって形をもつものは物体であるし、内側から固有のかたちを形成していくことは、生命に特有の現象である。

たしかに、原子や分子についての理解をもつようになった現代では、このように区分することはできない。なぜなら原子や分子のふるまいは、それ自身に内在する力によっていかなるからである。しかし、ヨーロッパの古代中世を通じて理解されてきた個について考えるためには、むしろ素朴な見方を土台にしていかなければならない。じつさい現代においても、わたしたちの目にアザやかに見えるものに限定すれば、生き物は <sup>㊧</sup>甲 し、それに対して物体は、 <sup>㊧</sup>乙 である。

だから、特定の「この」木材のもつ大きさや形は、たまたまそのとき作られている形であり大きさである。「この」木材と「あの」木材の共通性はその材質にあつて、相違が形と大きさにあるとき、「この」木材の個性、すなわち他との相違は、外在的である。なぜなら、木材の性質は内在的だが、形と大きさの違いは外在的だからである。したがって、こういう個々の物体に見られる大きさや形の違いは、本質的、

あるいは、実体的相違ではない。むしろ外から異なる形と大きさが与えられている、という意味で、偶性的、付帯的である。

つまり個々の物体を区別する形や大きさは、内的、本質的でなく、外からたまたま付け加えられたものである。木材一般としては、その性質の共通性が本質的である。他方、個々の木材は、切り分けられて、「この」形と大きさに決められ、それ以上切り分けられないところで、「この」木材として使われる。またさらに彫り込まれて彫像となる場合にも、その「このもの」（この彫像）であることは、外から与えられた形であり、大きさである。だから木材の個性は、本質的ではなく、むしろ付帯的であると言われる。人間が利用する物質は一般に<sup>3</sup>このようなものである。「この」鉄材にしても、「この」石材にしても、同様である。

これに対して生物の個性は、ある形と大きさが内在的な原理によって決まっています、それ以外の形と大きさであることはできない。たとえばこの一匹の馬は、それ自身の遺伝子によって色と形を決められている。だからその個性は内的なものであり、本質的なのである。

他方、「種的」ないし「類的」共通性も、生物個体の本質である。たとえばこの馬とあの馬は同じ馬という種の個性である。ところでこの馬にとっても、あの馬にとっても、馬であることは共通に本質的である。

しかし、「共通な本質」と「個別的な本質」は互いに異なる。つまり、この馬とあの馬がそれぞれ別々の個性をもつことが本質的であるのと、これとあれが共通に馬であることにおいて本質的であるとは異なっている。「この馬」は、だから二重の本質をもつと言える。すなわち、複数の個体に共通の「馬」という本質と、「この馬」だけに本質的な個性をもつのである。

そしてこの個性は、一般に生物のなかでも高等になればなるほど顕著であると見られている。もちろん高等と言っても、昆虫世界で理解される高等性ではなく、知的性質の高等性を言うのである。この個性によって「かけがえない」個人が記憶にとどめられる。いくら高等でも、わたしたちはミツバチの一個体に「かけがえのなさ」は感じられない。それに比して、ペットのイヌやネコには「かけがえのなさ」が感じられるから、一緒に過ごしたあとでは、その死に際して、人は心の痛みを感じるのである。そういう意味もあって、<sup>4</sup>「ペットのイヌやネコに名前がつけられる」。それは個々のイヌやネコを区別することであり、その区別が本質的であることを物語るのである。

八木雄二 『ただ一人』生きる思想』

問1 二重傍線部㉞㉟の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は ㉞ 1、㉟ 2、㊱ 3、㊲ 4、㊳ 5。

㉞ ジュウナン

- ① 権威にモウジュウする
- ② カイジュウ策を講じる
- ③ クジュウをなめる
- ④ 怒りがジュウマンする
- ⑤ ジュウメンをつくる

㉟ フハイ

- ① 妙な風説がルフする
- ② 第一人者だとジブする
- ③ 国家のフチンに関わる
- ④ 一族のケイフをたどる
- ⑤ 経営に日夜フシンする

㊱ チリチリ

- ① サندانがつく
- ② 創設にサンカクする
- ③ サンピを問う
- ④ サンブンをつづる
- ⑤ 大企業のサンカに入る

㊦ アザやかな

- ① キンセンに触れる
- ② 都内にセンプレクする
- ③ センレンな印象を残す
- ④ 材料をセイセンする
- ⑤ センプレウを巻き起こす

㊧ イジ

- ① ケイイを説明する
- ② 敵をホウイする
- ③ 原典にイキヨする
- ④ 商品をイソウする
- ⑤ センイ工業で栄える

## 問2

傍線部1「生き物は一個に統制されて生きている」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 6。

- ① 生き物は細胞核の中にDNA分子が保存されており、それが設計図となって個体が形成され、一個の生物として成立しているということ。
- ② 生き物はある種のものだけを透過する細胞膜で囲われており、それのおかげで外部から独立して生きることができているということ。
- ③ 生き物は自らの内にさまざまな主体をかかえもっており、それらが担当領域における判断を下し、全体としてまとまっているということ。
- ④ 生き物はじつに複雑な機構をもっており、それらが脳の発する指令のもと、すべてが制御され調和を保ちながら生きているということ。
- ⑤ 生き物は国家にとっての憲法のような遺伝子のもとで動いており、それによって現実を起こるさまざまな問題を解決しているということ。

問3 空欄

解答番号は a 、b 。

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- a
- ① 自発性
  - ② 獨創性
  - ③ 論理性
  - ④ 機能性
  - ⑤ 普遍性
- b
- ① 素朴な見方
  - ② 画期的な見方
  - ③ 観念的な見方
  - ④ 分析的な見方
  - ⑤ 自然な見方

問4 傍線部2「生命はやはり神秘に見える」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選

びなさい。解答番号は 。

- ① 物体は絶対性を示す個性をもつが、生物個体は他の個体とともにふるまいをするため、予想をすることができないから。
- ② 物体は普遍性を示す個性をもつが、生物個体は主体の思うままのふるまいをするため、予想をすることができないから。
- ③ 物体は本質性を示す個性をもつが、生物個体は素朴ではあるが独特なふるまいをするため、予想をすることができないから。
- ④ 物体は偶然性を示す個性をもつが、生物個体は偶然性とは異なるふるまいをするため、予想をすることができないから。
- ⑤ 物体は法則性を示す個性をもつが、生物個体は因果関係を超越したふるまいをするため、予想をすることができないから。

問5 空欄

解答番号は 甲 、乙 。

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- 甲
- ① その内側に原理をもっている
  - ② その内側に共通性をもっている
  - ③ その外側に偶然性をもっている
  - ④ その外側に付帯的なものをもっている
  - ⑤ その内側に歴史をもっている
- 乙
- ① 内側が個別的なものである
  - ② 内側が普遍的なものである
  - ③ 外側の形が偶然的なものである
  - ④ 外側の形が本質的なものである
  - ⑤ 内側が必然的なものである

問6 傍線部3「このようなもの」とあるが、これは何を指しているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は12。

- ① 他の木材との相違が際立った個別的な木材の本質が表れ出た大きさや形を持つもの。
- ② 個別的な鉄材には存在しておらず、個別的な木材だけに存在する大きさや形を持つもの。
- ③ 鉄材一般にも木材一般にも共通する、必然的に外から与えられた大きさや形を持つもの。
- ④ 木材一般が持っているものではなく、外から与えられた個別的な大きさや形を持つもの。
- ⑤ 鉄材一般には備わっていないのだが、木材一般には備わっている大きさや形を持つもの。

問7 傍線部4「ペットのイヌやネコに名前がつけられる」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は13。

- ① ペットのイヌやネコは、一匹一匹が持っている個性が異なっており、その個性を内在的なものとして捉えることができるから。
- ② ペットのイヌやネコは、ミツバチよりも知的に優れており、人間と言葉を用いて心を通わすことができるパートナーであるから。
- ③ ペットのイヌやネコは、個体としての統制をもつ個別の生物であり、統制されていないミツバチなどの昆虫とは異なっているから。
- ④ ペットのイヌやネコは、他のイヌやネコと「種的」ないし「類的」共通性をもっており、一般化して捉えることが可能であるから。
- ⑤ ペットのイヌやネコは、他に変えることのできないかけがえのないものであり、自分の所有であることを表す必要性があるから。



問 8

本文の内容から読み取れるものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。 解答番号は 14。

- ① 生物の個性と物質の個性を比べると、物質の個性よりも生物の個性のほうがより必然的で、しかも本質的である。
- ② 動物とは異なる個性をもつ植物は、葉が落ちてもすぐに枯れるわけではなく、生死という観念で捉えることはできない。
- ③ 遺伝子に支配されて行動を決定していく生物よりも、脳が個体を統制している人間のほうが、より主体的な生き物である。
- ④ 個々の物体に見られる大きさや形と、個々の生物に見られる大きさや形は、その物体や生物の本質を規定するものである。
- ⑤ 個々の人間が同じ人間でありながら、本質的な違いを持ち个性的であるため、個々の人間はかけがえないものである。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

一九六八年、日本人としてはじめてノーベル文学賞を受けた川端康成は、作家個人というより（日本）を背負ってそれを押し戴いた。並みいる燕尾服の間にひとり羽織袴で授賞式に出席し、受賞記念講演として「美しい日本の私」を語ったのだ。

川端自身、受賞の理由を、「美しい日本」を描いたからだと思っていた。講演のなかでとりあげた自作は『千羽鶴』で、それは茶の湯の世界を（ただしその近年の墮落をも含めて）舞台としたものだった。

では、川端自身がイメージした（日本）とはどのようなものだっただろうか。

まず、タイトルの「美しい日本」という部分だが、前にも述べたとおり、固有名詞を修飾する形容詞は基本的に限定用法ではなく叙述用法なので、「日本」に「美しい」部分とそうでない部分とがあつて、ここではその「美しい」部分をトピックとする、という意味ではなく、「日本」＝「美しい」を意味していると思われる。

そのことは、この講演を英訳したサイデンステッカーが「美しい日本」を「Japan, the Beautiful」としていることにも明らかだ。「Beautiful Japan」としないことにより、「日本」と「美しいもの」とが同格であるという解釈をはっきり示している。

岡倉天心から半世紀以上を過ぎ、醜悪な大戦争を過ぎ、国が焦土となっても、川端にとつて依然（日本）は美の国であった。美は日本のアイデンティティを成す。講演のなかで川端はひたすら「日本美」を語る。それ以外のことは語らない。川端個人の文学はそのなかに溶け入っている。「日本美」を代表するのはやはり「茶道」であり、その「根本の心」は「雪月花の時、最も友をおもふ」ことである。

四季折り折りの美に、自分が触れ目覚める時、美にめぐりあふ幸ひを得た時には、親しい友が切に思はれ、このよろこびを共にしたいと願ふ、あ、美の感動が人なつかしい思ひやりを強く誘い出すのです。この「友」は、広く「人間」ともとれませう。また「雪、月、花」といふ山川草木、森羅万象、自然のすべて、そして人間感情をも含めての、美を現はす言葉とするのが伝統なのであります。

これまで幾度となく見てきたとおり、ここでは「日本美」の属性としての《主客未分》の感動が語られている。対象としての「自然のすべて」ばかりでなく、主体としての「人間感情をも含めて」「美を現はす言葉とするのが伝統なのである。そして美の感動は「友」や他の「人間」すべてにまでじわじわと浸潤してゆく。与謝野晶子や九鬼周造の祇園での桜体験が思い出される。

この美が対象の性質とは言い切れず、主体の「感情をも含めて」しまっている以上、「美」と「美意識」の区別はできない。aに見れば、これは「美」でも「美意識」でもないということになる。たとえば次のような「美」を、からごころや西洋的な美学で「美」と言い切ることができるだろうか。

僕がいつ敢然と自殺出来るかは疑問である。唯自然はかういふ僕にはいつもよりも一層美しい。君は自然の美しいのを愛ししかも自殺しようとする僕の矛盾を笑ふであらう。けれども自然の美しいのは、僕の末期の眼に映るからである。

川端が講演のなかで引いた唯一の現代作家の文章、芥川龍之介の遺書の一節である。死を決意した者の眼に映る自然は美しい。

い、このようなある種の極限状況にある主観が生み出す美をはたして「美」と言つてよいのだろうか。もし美の基準が主体の感情のみよるのであれば、それはたんに好悪の問題であつてあえて「美」ということばを持ち出す必要はない。

だからここには個人の主観を超えた共感の契機が残されているはずだ。少なくとも川端はこの芥川に共感し、自らの有名な随筆の一篇を「末期の眼」と題したし、この講演のなかでも同様に死と美や藝術とを不可分のものとして結びつけた他の人間の例を挙げている。

ただ川端は、こうした死に対する考えは、西洋のそれとは違っているだろうとも述べ、<sup>2</sup> こうした「日本美」のあり方が、講演の直接の聴衆である西洋の人々には理解され難いだろうことも付け加えている。

そしてこれ以上は説明しない。おそらくできない。川端が「美」という西洋語から外へ出ようとしなにかぎりは。それで、講演は聴衆にとつてもっとわかりやすいであろう「日本美」の他の属性へと話題を転ずる。

西洋の庭園が多くは均整に造られるのにくらべて、日本の庭園はたいいてい不均整に造られますが、不均整は均整よりも、多くのもの、広いものを象徴できるからであります。

《不完全性》が「日本美」の属性であることは、当時の聴衆にもよく理解されたであろう。

さらには「日本の美を確立したのは『平安文化』のときだと言うが、『平安文化』一般が宮廷のそれであり、女性的である」というのは、本居宣長が「やまとごころ」を女性的だとしたのに通じる認識である。【一】

しかもそれは平安とともに終わったわけではない。【四】武家の政治に移っても、「天皇制も王朝文化も滅び去ったわけではなく」、たとえ『古今和歌集』の「歌法」は「妖艶・幽玄・余情を重んじ、感覚の幻想を加へ、近代的な象徴詩に通ふ」というのだ。【五】一度確立されたものは次のものが来ても生き残るといふ重層性を指していると言える。【六】それは日本に十分取り込まれ、「日本」の一つの「層」を成しているものであり、その重層性こそが「日本美」の特徴なのだ。【七】

しかし、そうした重層性を丸山眞男は「雑居性」と呼び、批判していた。

川端につづいて一九九四年に日本人二人目となったノーベル文学賞受賞者、大江健三郎も基本的に丸山と同じ側に立っている。彼の受賞記念講演「あいまいな日本の私」は言うまでもなく、川端の同講演のタイトルをもじったものである。

大江によれば、川端の講演は「きわめて美しく、またきわめてあいまいなもので」あった。この「あいまい」にはカタカナで「ヴェイグ」とルビが振られている。タイトルからして、ここでは **b** にあいまいさが扱えらびとられているというのだ。

サイデンステッカーによる英訳のタイトル全体は *Japan, the Beautiful, and Myself* であった。大江の指摘通り、*and* は「美しい日本の私」の助詞「の」の訳としてはおかしい。所有や同格を表わすことはあっても、並列を示すのに「の」は用いられない。

もちろん、川端が **甲** サイデンステッカーがそんなことを知らないはずもなく、しかしこれをどうしても *in* や *of* で訳すことに抵抗を感じたのだろう。「私」がそのまま「日本」へと滲しん出し拡大するような感覚が英語話者には理解しがたいと感じたに違いない。しかし、先に見たとおり、川端によれば「日本美」はそれに触れた者の感動を「友」から「人間」へと広げてゆくものだった。それこそが「美しい日本の私」というタイトルの意味であった。

そしてまたそれこそが **3** 大江の批判するところでもある。

右のタイトルのもとに、川端は、日本的な、さらには東洋的な範囲にまで拡がりをもたせた、独自の神秘主義を語りました。独自の、というのには禅の領域につながるということで、現代に生きる自分の心の風景を語るために、かれは中世の禅僧の歌を引用しています。しかも、おおむねそれらの歌は、言葉による心理表現の不可能性を強調している歌なのです。閉じた言葉、その言葉がこちら側につたわって来ることを期待することはできず、ただこちらが自己放棄して、閉じた言葉のなかに参入するよりほか、それを理解する、あるいは共感することはできないはずの禅の歌。

これは、川端に限らず「日本美」全体に言えることでもある。それを確固とした主体を残したまままで理解しようとしてもできず、共感のた

めにはある種の「自己放棄」を要求するような類の美である。《主客未分》が主要な属性なのだから当然のことではある。

しかし、大江はこれが無反省の態度を生むことを懸念している。先ほど「あいまい」に振られたルビ「ヴェイグ」は、あらためて「アンビギュアス」と言い換えられ、前者が「ぼんやりした」という輪郭のあいまいさを示すのに対し、日本人の態度は後者のような「どっちつかずの」あいまいさに近いと言う。

これは重層性のことであろうが、しかし大江によれば、日本人は異なる二極の間で引き裂かれているのだ。旧い日本と新たに<sup>ふる</sup>入ってきた西洋との間で引き裂かれ、そこで **乙** がゆえに戦争というとりかえしのつかない悲惨を生んだ。道徳的な面での「あいまいさ」「どっちつかず」は、求めるべき価値とは言えない。

**う** ここで大江は、日本を外から見ると一方的に批判しているのではない。むしろ自己を含めた反省である。それは講演のタイトルが「あいまいな日本の私」であることからわかる。「私」もその一員であるというばかりでなく、あの西洋語に翻訳しがたい「の」という助詞をわざわざ残してある。

伊藤氏貴『美の日本 「もののはれ」から「かわいい」まで』

問1 傍線部1「美しい日本」とあるが、この表現の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。

解答番号は **15**。

- ① 「日本」が美の国であると誇りに思っている川端にとって、「美しい日本」は、修辭法を駆使して、その強い思いを表したものである。
- ② 敗戦で落胆する日本を励ましたかった川端にとって、「美しい日本」は、「日本」は自然が豊かな国であるということを表したものである。
- ③ 美が日本の日本らしさを示すと考える川端にとって、「美しい日本」は、「日本」は「美しいもの」であるということを表したものである。
- ④ 講演のなかで「日本美」を語りたかった川端にとって、「美しい日本」は、叙述用法という特異な用法を使って、それを表したものである。
- ⑤ ノーベル文学賞を日本人ではじめて受賞した川端にとって、「美しい日本」は、「日本」の「美しさ」に託しながら自分自身を表したものである。

問2 空欄

あ

く

う

を補うのに、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号はあ 16、い 17、う 18。

- ① つまり
- ② そのため
- ③ もちろん
- ④ しかし
- ⑤ そこで

問3 空欄

a

b

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は a 19、b 20。

- a
- ① 概念的
- ② 現実的
- ③ 直観的
- ④ 分析的
- ⑤ 感情的
- b
- ① 相対的
- ② 本質的
- ③ 意識的
- ④ 一義的
- ⑤ 逆説的

問4 傍線部2 「こうした『日本美』のあり方」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。

解答番号は 21。

- ① 「日本美」は、「美」と「美意識」とを明確に区別する西洋的な美学では表現できないような深遠な美しさを属性としている。
- ② 「日本美」は、それに触れた者の感動が、自分だけではなく「友」や他の「人間」にまで広がっていくことを属性としている。
- ③ 「日本美」は、自然の美しさを表現しようとする主体の感情が自然に反映するという主体を中心とした考えを属性としている。
- ④ 「日本美」は、死を迎えたときが最も感性が研ぎ澄まされているので、そのときに感じた美しさを表現することを属性としている。
- ⑤ 「日本美」は、山川草木、森羅万象、自然のすべてに感性を研ぎ澄ませ、自然の豊かさを味わいつくすことを属性としている。

問5 次の一文を挿入する場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は **22**。

川端も、天心と同様に、〈日本〉を語る際に禅などの中国起源のものを排除しない。

- ① 【Ⅰ】    ② 【Ⅱ】    ③ 【Ⅲ】    ④ 【Ⅳ】    ⑤ 【Ⅴ】

問6 空欄 **甲**、**乙** を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は **甲** **23**、**乙** **24**。

- 甲 ① 度肝を抜かれている    ② 手綱を締めている    ③ 心に掛けている  
④ 蘊蓄<sup>うんちく</sup>を傾けている    ⑤ 全幅の信頼を置いていた
- 乙 ① 進退窮まった    ② 生き血をしぼられた    ③ 一肌脱いだ  
④ 溜飲を下げた    ⑤ 顔色を失った

問7 傍線部3「大江の批判するところ」とあるが、大江が批判しているのはどういふところか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は **25**。

- ① 主体と客体を明確に分離したうえで、物事を客観的に捉える視点を持つことができず、何となく生きてしまっているところ。  
② 過去に一度確立されたものは日本では消滅することなく堆積していくため、真に新しいものを生み出すことができないところ。  
③ 主体である私を滅却するのが日本美であると考えため、主体の判断のもとで物事を捉えることができなくなってしまうところ。  
④ 新しい文化を持つ西洋との接触によって、伝統的な文化を持つ日本が、自己に自信を持つことができなくなっているところ。

⑤ 美しいものとそうでないものを自己の感性に基づき区別するのではなく、何の反省もなくそのまま受容してしまうところ。

問 8 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。 解答番号は **26**。

- ① 川端の講演を英訳したサイデンステッカーは、川端のことは理解していたが、日本のことは理解していなかった。
- ② 死を決意した者の眼に映る自然は美しいように、美の基準である主体の確たる意志が美にとっては大切なのである。
- ③ 文化はその風土と関係があるため、日本の文化は西洋人には理解できず、西洋の文化は日本人には理解できない。
- ④ 批判されるにしろ称賛されるにしろ、どちらにしても日本美の特徴の一つが重層性にあることは間違いないことである。
- ⑤ 丸山眞男は日本には何層もの文化が積み重なっており、そこには評価できないものも混じっていると批判している。